2020年６月８日

各　位

会　社　名　株式会社ゼネラル・オイスター
代表者名　代表取締役社長　吉田　秀則
代表取締役　ＣＥＯ　丹野　裕介
（コード番号：3224　東証マザーズ）
問合せ先　経理財務部部長　柏木　伸介
（TEL.03-6667-6606）

〈マザーズ〉投資に関する説明会開催状況について

下記のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

掲載日時	2020年６月８日（月）～
掲載方法	インターネットを利用した動画配信
掲載場所	当社ホームページ http://www.g-oyster.com/IR/
説明会資料名	2020年３月期決算説明資料

【添付資料】
１．動画の収録時において使用した資料

以　上

2020年3月期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター

（3224）

General Oyster

2020年６月８日



1. 2020年3月期　通期　トピックス



2020年3月期 通期 決算ハイライト

General Oyster

1

通期業績は減収減益で着地。

3Qまでは堅調に推移するも、2月に入ってからのコロナ禍の影響により売上高が４Qで激減。

2

店舗事業が、コロナ禍による影響により、2月中旬以降、大きく後退

コロナ禍の下、商業施設の店舗が休業や営業時間の短縮を余儀なくされ、売上高が激減。
ただし、「緊急事態宣言」の解除に伴い、6月3日から休業店舗の営業を再開（時短営業は継続）。

3

卸売事業については、コロナ禍による影響を受けるも、前期比で+12.9%の増益

新規取引先の開拓など販路拡大が奏功。

4

香港市場への輸出が急増

いち早くコロナ禍が終息した、香港市場への殻付き生牡蠣の海外輸出が急増。
今後のアジア市場への展開に向けて大きな弾み。

連結損益計算書概要

General Oyster

３Qまでは、消費増税の影響はあったものの店舗事業及び卸売事業とも堅調に推移。４Qに入り2月中旬以降、コロナ禍の影響により、商業施設の店舗が休業や営業時間の短縮を余儀なくされ、減収及び損失幅が拡大した。

（百万円）	2019年3月期	2020年3月期	増減額	ポイント
売上高	3,706	**3,579**	▲127	・店舗事業、卸売事業が堅調に推移するも、2月中旬以降、コロナ禍の影響により減収。
売上総利益	2,478	**2,359**	▲119	・原材料価格の上昇などにより、原価率が上昇。
販管費	2,499	**2,505**	+5	・-
営業利益	▲21	**▲146**	▲124	・売上減、原価率の上昇により減益
経常利益	▲18	**▲157**	▲138	・支払利息の増加、社債発行費の発生
親会社株主に帰属する **当期純利益**	▲269	**▲106**	+162	・損失幅が縮小(前期においては減損損失を計上)

貸借対照表概要

General Oyster

コロナ禍の影響により、４Ｑで売上高が大きく低迷。それに伴って、商業施設等への「売掛金」が大きく減少したことから、総資産は前期末比で縮小した。

（百万円）

資産の部	2019年3月期 期末	2020年3月期 期末	負債・純資産の部	2019年3月期 期末	2020年3月期 期末
流動資産	510	347	流動負債	759	778
現金及び預金	131	123	支払手形・買掛金	123	101
売掛金	206	111	短期借入金*1	258	349
棚卸資産	100	94	その他	377	328
その他	72	18	固定負債	691	514
固定資産	1,255	1,218	長期借入金*2	181	67
有形固定資産	1,022	989	その他	509	447
無形固定資産	4	2	負債合計	1,450	1,293
投資その他の資産	228	227	純資産合計	315	272
資産合計	1,765	1,565	負債純資産合計	1,765	1,565

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む
*2．社債を含む

セグメント別業績概況

「店舗事業」「卸売事業」ともにコロナ禍の影響を大きく受けたものの、「卸売事業」は、増収増益を達成。

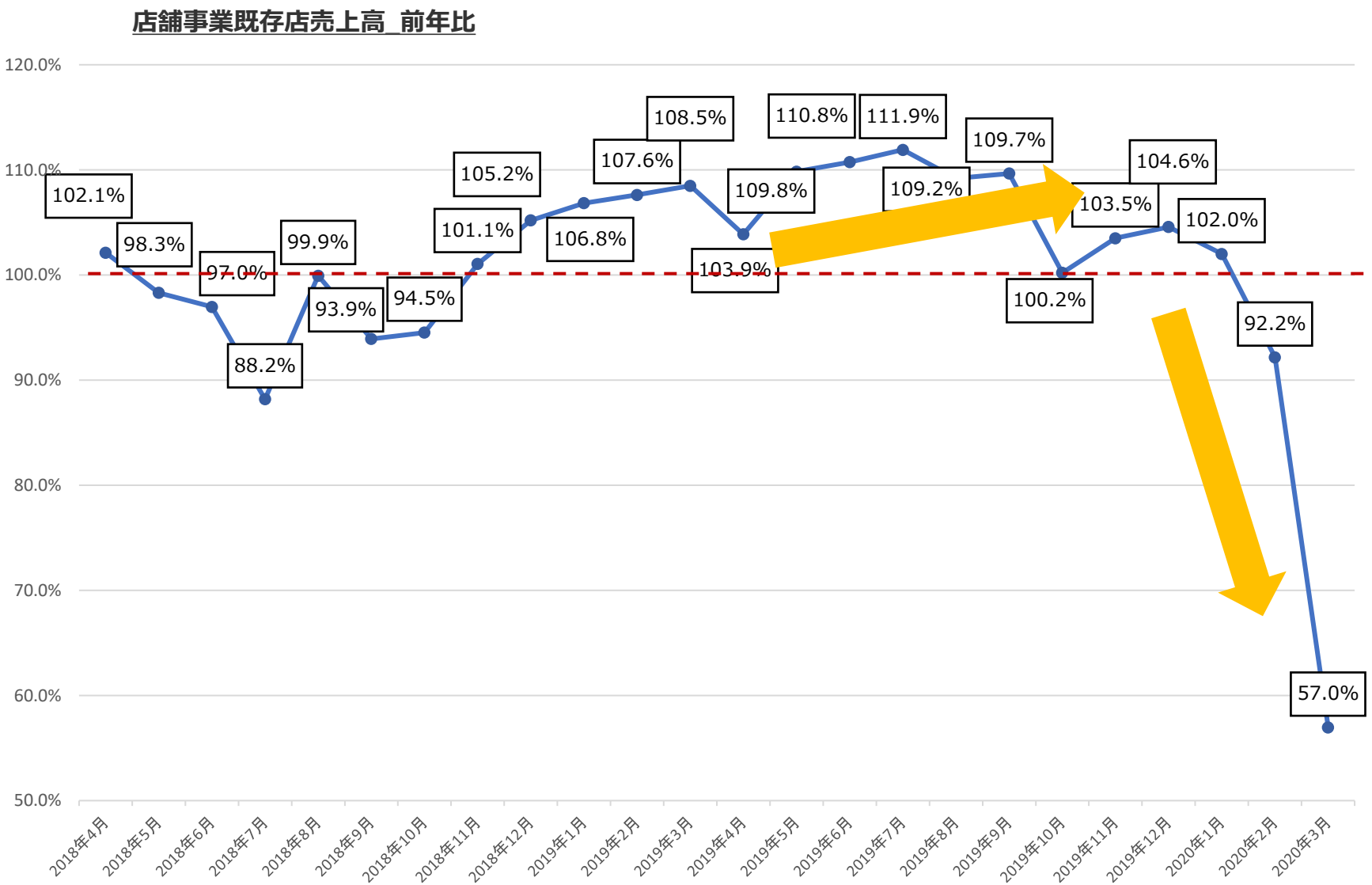
（百万円）

		2019年3月期	2020年3月期	前年同期比（%）	ポイント
店舗事業 オイスターバーレストランでの飲食サービス	売上高	3,424	**3,271**	95.5	３Qまでは堅調に推移。４Qに入り2月中旬以降、コロナ禍の影響により、商業施設の店舗が休業や営業時間の短縮を余儀なくされ、売上高が激減。
	営業利益	412	**318**	77.3	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品の外販卸売り	売上高	252	**280**	111.1	４Qに入り、コロナ禍の影響を受けたものの、増収増益を確保。
	営業利益	102	**116**	112.9	
浄化・物流事業 生牡蠣用の浄化センター、および物流事業	売上高	553	**587**	106.2	牡蠣フライなど加工品の出荷量が増加したことに加え、物流費の高騰により費用が増加。
	営業利益	▲198	**▲221**	―	
その他 陸上養殖、加工事業、種苗など	売上高	129	**187**	144.6	加工工場が本格稼働。陸上養殖も先行投資段階。
	営業利益	▲153	**▲186**	―	
調整額	売上高	▲651	**▲747**	―	
	営業利益	▲184	**▲173**	―	
連結財務諸表計上額	売上高	3,706	**3,579**	96.5	
	営業利益	▲21	**▲146**	―	

既存店売上高の推移

General Oyster

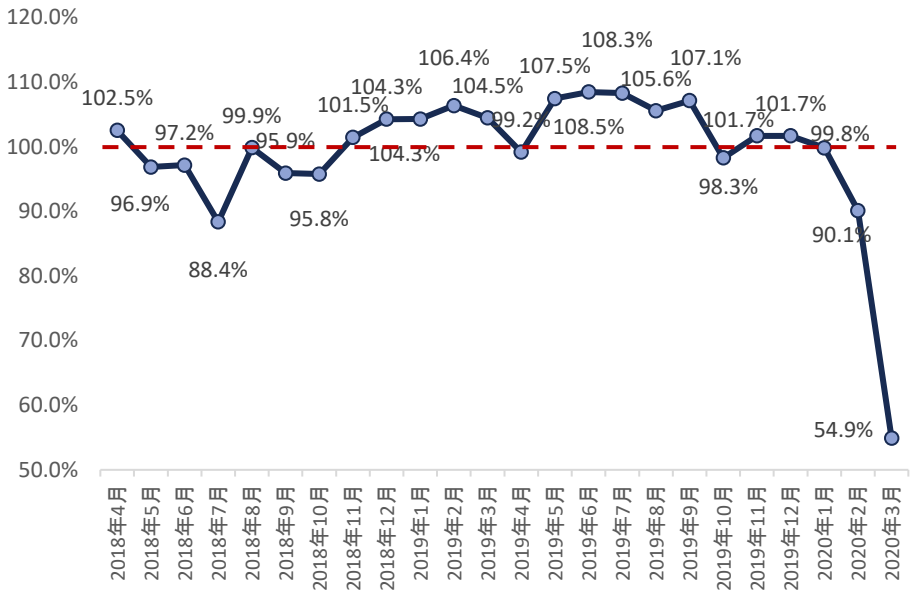
2020年1月までは、客数、客単価とも好調に推移するも、2月以降、コロナ禍の影響で大きく落ち込み、通期の既存店売上高（月平均）は前年比100.5%と微増で着地。



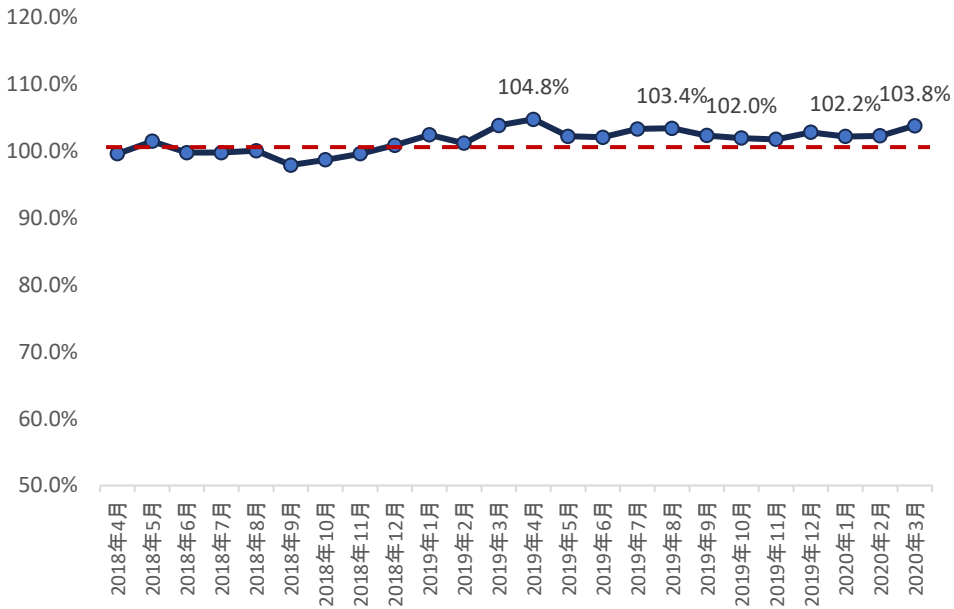
既存店客数・客単価推移

コロナ禍の影響により既存店の客数（月平均）は97.9%に落ち込んだが、客単価（月平均）は102.6%と好調に推移。

店舗事業既存店客数_前年比

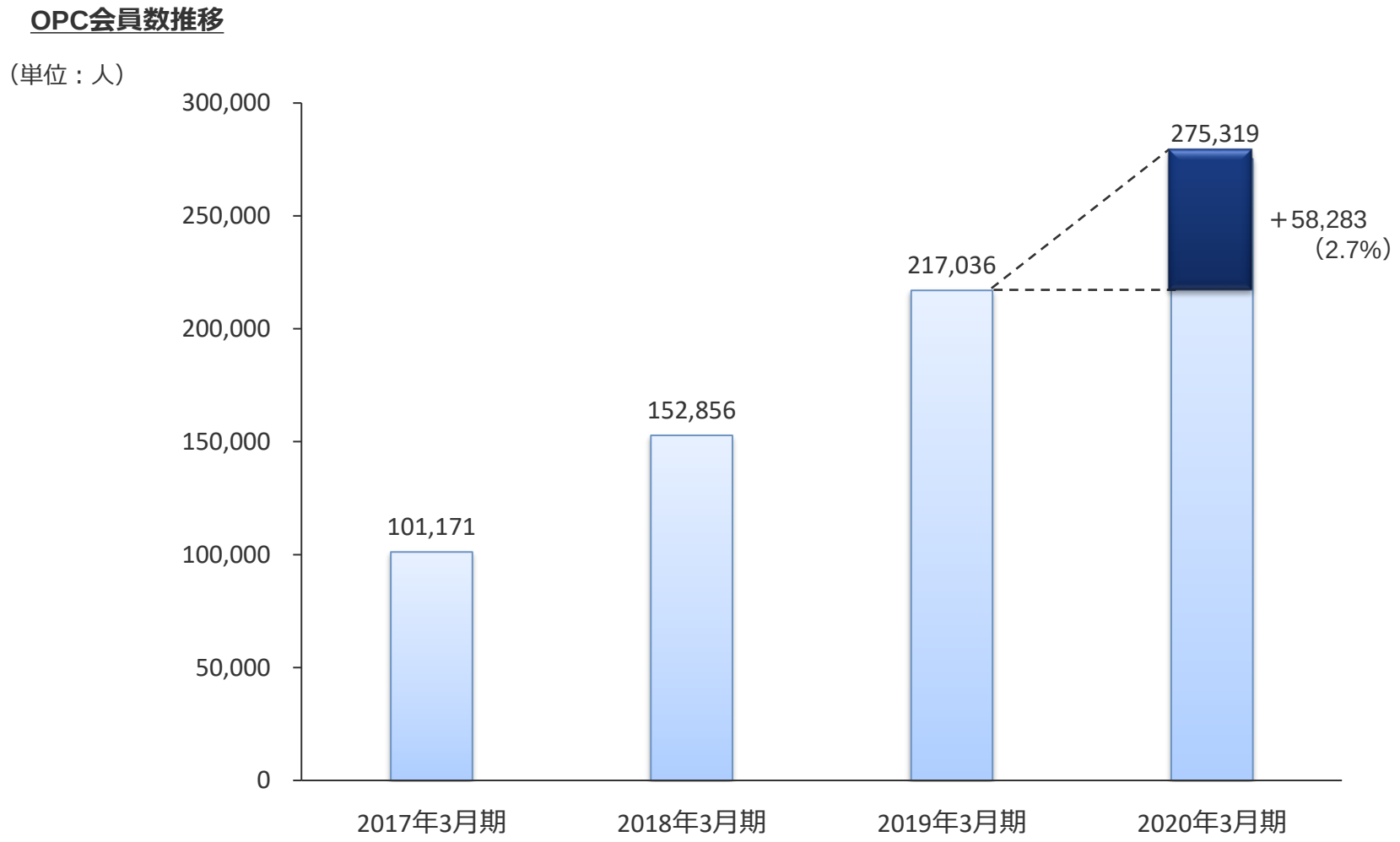


店舗事業既存店客単価_前年比



OPC会員数推移

店舗で利用できる「オイスターピースクラブ（OPC）会員数」は順調に拡大し、27万人を突破（前期末比約5.8万人増）。顧客基盤の底上げに寄与。



2. 新型コロナウイルスの影響について



新型コロナウイルス感染症の影響

General Oyster

店舗運営状況

	3月 （3月30日時点）	4月 （4月30日時点）	5月 （5月11日時点）	6月 （6月3日現在）
総店舗数	26店舗	26店舗	26店舗	26店舗
内、営業時間短縮店舗	14店舗	4店舗	5店舗	25店舗
内、休業店舗	6店舗	21店舗	20店舗	0 店舗

・2020年4月7日に、「緊急事態宣言」が発令され、大半の店舗（百貨店や商業施設へ出店している店舗）は休業となり、路面店は時間短縮営業の実施。富山・入善の店舗「牡蠣ノ星」の1店舗のみ通常営業。

・新型コロナウイルス影響前の2020年1月までは、既存店売上高対前年比はプラスに推移していたが、2020年2月からマイナスに転じ、2020年3月は▲43.1%。2020年4月はさらにマイナスが拡大している状況。

・「緊急事態宣言」の解除に伴い、6月3日より休業店舗の営業を再開（ただし、25店舗で時間短縮営業）

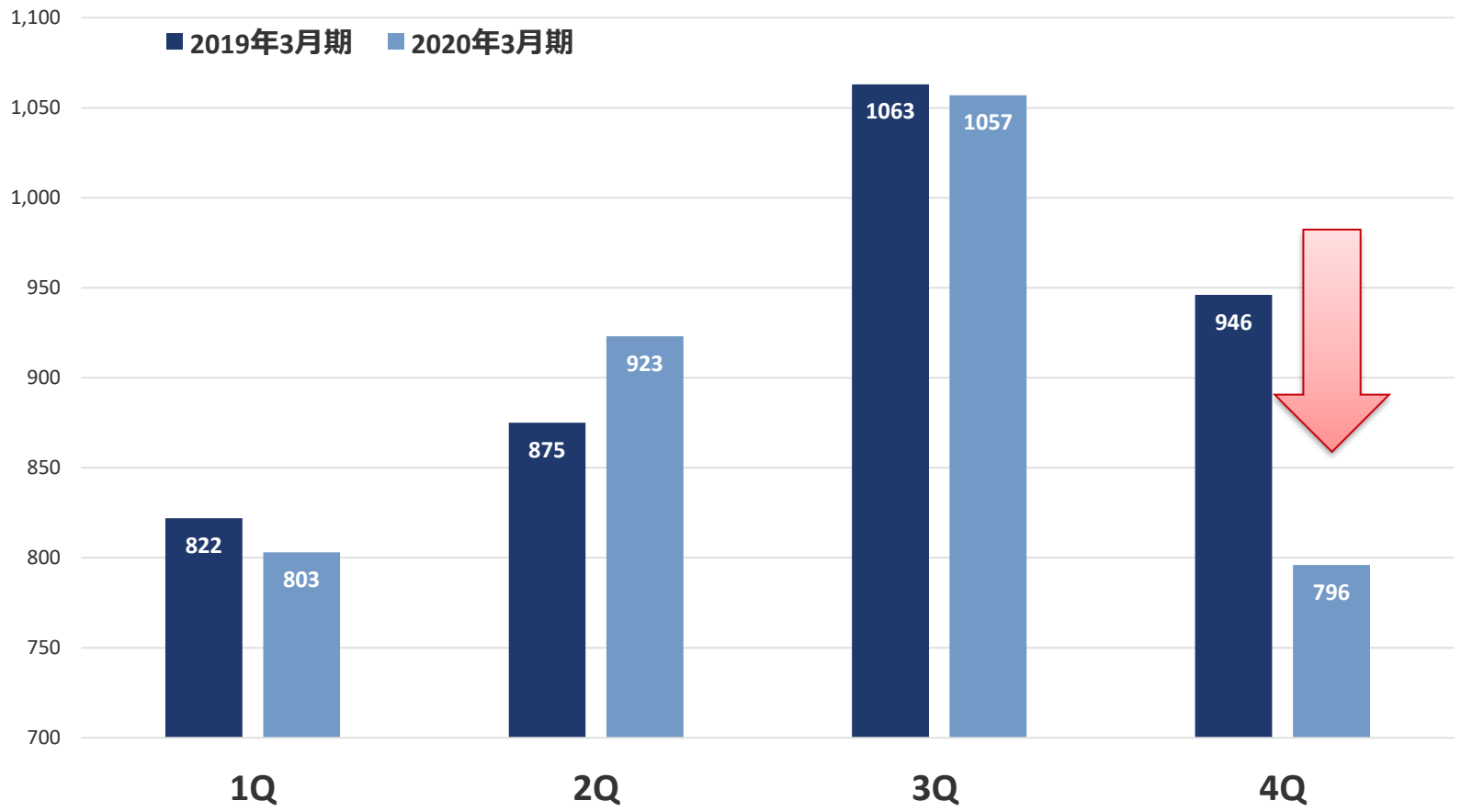
コロナ禍による売上高への影響

General Oyster

3Q（累計）までの売上高は対前年を上回っていたが、4Qに入ってからは休業や時間短縮の影響により、売上高は大きく落ち込んだ。

（単位：百万円）

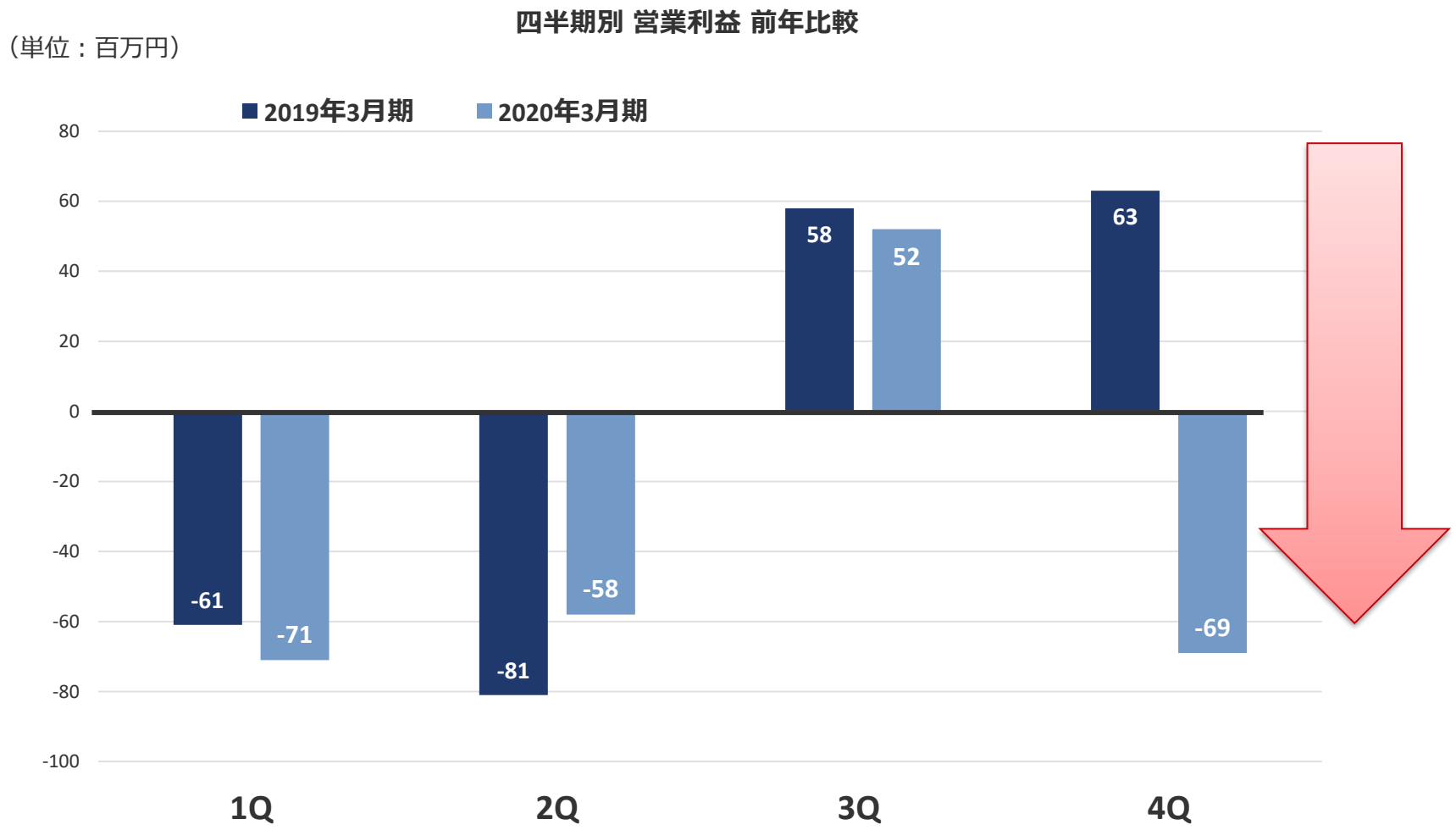
四半期別 売上高 前年比較



コロナ禍による損益への影響

General Oyster

前期同様、４Ｑで収益の底上げを図るシナリオが、コロナ禍の影響により大きく崩れ、損失幅が拡大した。



取り組み内容について

General Oyster

1 必要資金の確保

手元流動性を十分確保しているうえ、「緊急事態宣言」の解除により店舗営業も再開したものの、売上低迷が長期化するリスクを想定し、2020年4月・5月で銀行借入（２.6億円）を実施。さらには、2020年6月以降、追加借入(予定)により、必要な資金を確保する方針。

2 工場やセンターの機動的な稼働への転換

コロナ禍による事業への影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、工場やセンターなど拠点の、一部稼働休業、時間短縮など機動的な稼働へ転換

3 店舗及び、センターなどの取り組み

お客様と従業員の安心安全を確保するための施策を強化・徹底
　【消毒液（微酸性電解水）を店内すべてのテーブルなどに設置、マスクの着用、手洗いの徹底】

4 本社の取り組み

業務の見直しやワークシェアによる、リモートワークを継続中

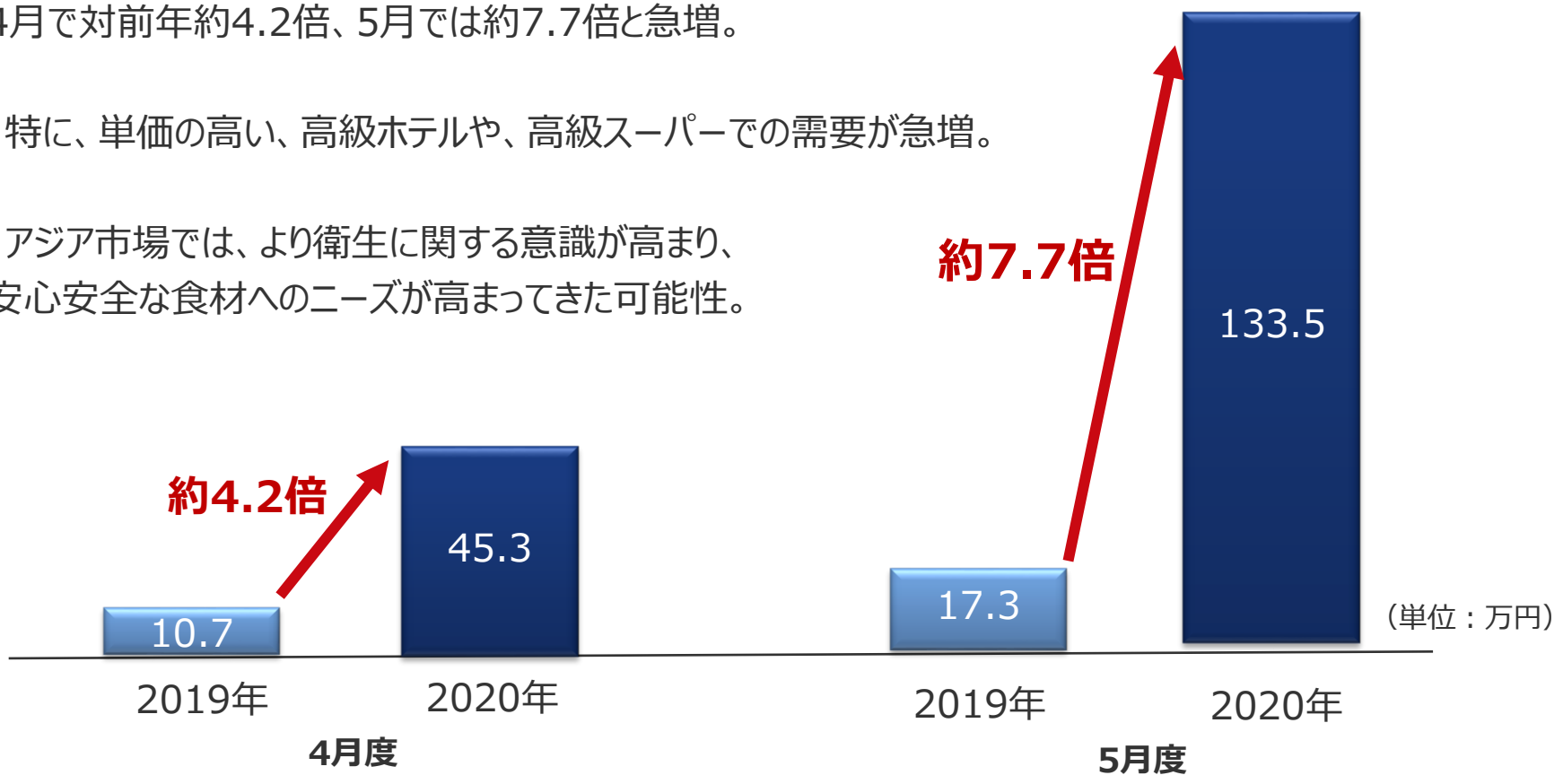
その他の取り組み内容(海外輸出)

いち早く新型コロナウイルスが終息した、香港市場への殻付き生牡蠣の海外輸出が急増。

・コロナ終息後の香港で、ゼネラルオイスターの特許技術で浄化された、
安心安全で高品質な牡蠣の需要が急激に伸びており、
4月で対前年約4.2倍、5月では約7.7倍と急増。

・特に、単価の高い、高級ホテルや、高級スーパーでの需要が急増。

・アジア市場では、より衛生に関する意識が高まり、
安心安全な食材へのニーズが高まってきた可能性。



3. 2021年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

General Oyster

通期業績の合理的な見積りが困難なため、2021年3月期の連結業績予想は一旦「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表する。

（百万円）	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 連結業績予想	前年同期比 （%）
売上高	3,579	未定	-
営業利益	▲146		-
経常利益	▲157		-
当期純利益	▲106		-

・休業店舗が6月3日をもって全店再開したものの、外出自粛の影響や新型コロナウイルス感染再拡大による休業/営業時間変更の可能性などを踏まえ、現時点での業績予想は未定とする。

・コロナ禍による事業への影響がある程度見通せるタイミングにて、2021年3月期業績予想の発表を予定。

General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。